フランス　リール政治学院

留学報告書（2023-2024）

国際関係学部　国際関係学科４年

1.はじめに

フランスのリール政治学院にて、2023 年 8 月～2024 年 5 月の 10 か月間交換留学を行いました。この報告書では、リール政治学院での学校生活やフランスでの生活について報告します。

2.リール政治学院での学校生活について

まずリール政治学院は、北フランスのノール県にあるリールという街にあり、パリから北に TGV（日本の新幹線のような交通機関）で 1 時間ほどの場所に位置します。また、グランゼコールというフランスにおける大学と並ぶ高等教育機関の一つとして知られ、名前の通り政治学に特化した学校です。留学生が非常に多く、英語やフランス語、スペイン

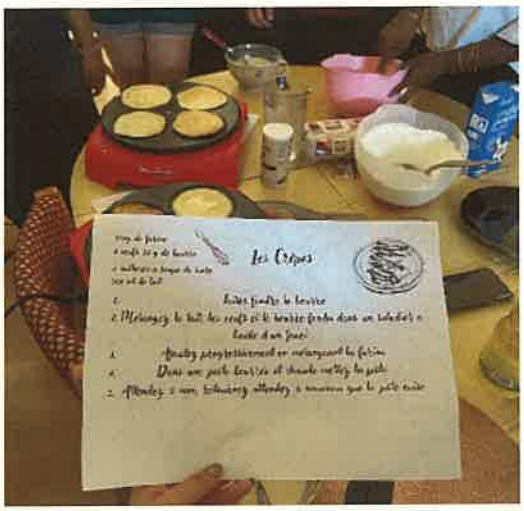
語の授業が用意されています。留学生向けの授業も多くあり、多国籍なクラスでは、各国の政治に関する議論や国際政治に関して多角的な視点で考えることができました。教授もフランス人だけでなく、イギリスやポーランドなど様々な国から来ており、多種多様な授業を受ける機会があったのが非常に良かったです。また、留学生用にフランス語を学ぶ授業も週に一度設けられており、学校でも実用的なフランス語を学ぶことができました。これまで意識していなかった細かい発音も授業の中で直してくれるため、フランス語を話す良い機会でもありました。授業で習った構文を使って実際にフランス人の友人と話すことで、復習にもなり、習得が速かったように感じます。

リール政治学院の図書館は 22 時まで開いており、非常に多くの学生が利用をしていました。テスト期間だけでなく、普段から多くの人が図書館で勉強をしており、正規の学生が受けている授業の課題の重さが窺えました。留学生用の授業は、県大での授業と比べると、最終課題の分量が多く、大変で、かつ予習の多い授業がいくつかあったものの、正規生と比べて容易だと感じました。

3.フランスでの生活について

長期休暇が春夏秋冬それぞれにあったため、多くの国に旅行に行くことができました。フランスに長期間住んでいたからこそ、他の国に行った時に、日本そしてフランスとその国を比較することができました。例えば、ドイツに行った際に、フランスと比べて、電車の遅延が少なかったり、お店のオープンが早かったり、信号を守る人が多かったり、英語を話す店員さんが多いように感じる等様々な違いを見つけました。日本人のような勤勉さや真面目さを感じることもあり、日本と働き方が似ていると言われている理由が実際に訪れてみてわかったように思います。トルコに行った際には、夜にチャイを飲んで語り合う人々の光景に驚きました。ヨーロッパでは、お昼頃からお酒を飲む人も多い中で、夜の楽しみ方の違いを実感しました。

また、クリスマスや年末年始の過ごし方やクレープの日など多くの異なるフランス文化を経験することができたのも非常にいい経験でした。年越しは凱旋門でカウントダウンをしました。シャンゼリゼ通りいっぱいに人が集まり、友人たちと共に年越しをしました。シャンゼリゼ通りに入るのに荷物検査が路上であったり、カウントダウン後も警察が規制をし、退去を求めているなど、治安の違いを実感する機会でもありました。また、翌日の初日の出のスポットにはほとんど日本人しかおらず、他の国の人が見る風習がないのに驚いたり、また、元旦はお店がほとんど開いていないのも驚きでした。様々な違いを見つけたり、さらにそこから日本文化の良さを発見できたと思います。



4.おわりに

フランスに交換留学をしたことで、非常に多くの発見があり、良い学びの機会でした。自分自身で作り上げる留学だからこそ、自身の無力さを感じることもありましたが、何にでも挑戦できる時間だと思います。勉学に励むのももちろんですが、その他にも様々な場面で挑戦をし、出会いをし、自身が満足いく留学を創造することをぜひ楽しんでほしいです。私は、一人でバックパッカーをする夢や日本語教師を海外でする夢を叶えたり、他の国籍の子と旅行に行くことや、フランス文化に染まり、フランス人のように楽しんでみたり、テスト期間に勉強に追われる生活など、多くの物事に挑戦をし、経験をし、留学生活を楽しみました。行動した分だけ得られる学びや発見も多かったです。リールは学生が多い街でもあり、多くのイベントが毎週催されています。初めは特にいろいろな場に足を運び、友人の輪を広げてみると、その後の留学生活の楽しさも変わってくると思います。フランスでの生活に慣れるまでも時間がかかり、初めは大変だと思いますが、無理をしすぎない程度に頑張って行動してみてください。

フランス
リール政治学院

国際関係学部・国際関係学科・4年

総合的な感想としては、非常に貴重な経験を得ることができて非常に満足している。とくにフランスでの生活は日本の生活とはまったくもって別のものであり、何もかもが初めての経験であった。また、英語圏の国への留学とは違い、第一言語がフランス語であるのでフランス語の能力が非常に伸びるし、大学ではネイティブの英語スピーカーもいるのでフランス語、英語の両方を勉強できることが素晴らしいと思う。そして語学学校に通うのではなく、現地の大学に通うということも非常に自分の力になったと感じている。大学に通って非常にハイレベルな環境で学ぶことも素晴らしかったが、余裕があるときにヨーロッパを旅行できたことも非常に満足している。留学中に時間を作って十三か国に旅行をした。おなじ陸続きのヨーロッパでも全く違う言語、文化を体験できるのは興味深かった。非常に素晴らしい仲間にも囲まれ非常に充実した交換留学生活であった

私が派遣されたリール政治学院の講義内容は非常に専門的であり、また同時に多様性と包摂性に優れた大学であった。また、エラスムス協定というヨーロッパの交換留学を促進するプログラムに参加しているため、その協定も含めてたくさんの国から留学生が勉強をしに来る。授業は主にフランス語と英語で行われ、さらにスペイン語やイタリア語の授業も存在した。また主に政治や国際問題に関する授業の題材を取り扱うことが多く、国際性豊かなアイデアや意見が飛び交う。国際関係におけるディスカッションではたくさんの意見や国からの見方があり、新たな考え方や見方が得られた。

また、リール政治学院は交換留学生のケアも充実しており、BDIという国際交流を図る団体がたくさんのイベントを企画してくれるのでそのイベントに参加することでたくさんの友達ができた。また教授も生徒に寄り添うような姿勢で、教授と話しあい、最終エッセイの題材を決めることもあった。

また政治を扱う大学なのでたびたび市民たちの標的になることも多かったと感じる。(生徒を襲うなどは全くないが)とくに入口が障害物でふさがれ、大学が閉鎖されたことが二、三回あった。原因としては現在の政治の不満や、イスラエル・パレスチナ問題についてなどであった。

生活面では費用としては円安がひどく非常にお金がかかった。そして日本は安全で便利すぎるのでそれと比べると劣る部分が多いと感じた。自分の体感だが、フランスはヨーロッパの中でも物価が高いと感じた。そして日本のようなコンビニもないし、夜に出歩くことは非常に危険を感じる。しかし、いいところもたくさんあった。野菜や果物は非常に安く、毎日果物を食べることが日課になっていた。寮はセキュリティがしっかりしておりきれいで、駅から徒歩で三分くらいの場所にあるので非常に便利だった。そして管理人は非常に気さくな人で分からないことがあればすぐに聞くことができた。また大学の近くに非常に公園があり、天気が良いとたくさんの人が公園に出て芝生で寝転がったり作業をしたり気持ちの良い雰囲気だった。そしてリール自体、散歩が楽しい街だと思う。旧市街やシタデルという星形の非常に広い公園、グランプラスという非常にきれいな広場など、見どころがある。そして、パリやロンドン、ブリュッセルやアムステルダムなどの大都市へのアクセスも非常に便利である。

リールは大学がたくさんあり学生街のような感じだった。したがってレストランも学生メニューがあったり、学生にやさしい街だと思う。

フランスでは日本のように公共交通機関は時間通りにこない、またたびたびストライキが起きるので予定通りに行かないことも多い。したがって、何が起きても動じない図太さがついた。そして、そのような出来事からフランスの人々の考え方や生き方が学べて少しうれしかった。

もし今からフランスへの交換留学を考えているのなら絶対にチャレンジしたほうが良いです。海を越えてみないと分からないこと、考え方がたくさんあるなと気づかされた交換留学でした。リール政治学院は非常にハイレベルで活気のある大学だったので学問以外にも生徒の講義に対する姿勢や、生徒と教授の関係性などたくさんのことが学べます。大学以外でもフランス特有の文化や、生活様式、食生活など日本と違うことばかりで、すべてが非常に素晴らしい経験になりました。